

～生産者と消費者をむすぶ～相互理解による持続的な食料システムの構築

生産者と消費者の相互理解を推進し、持続的な食料システムの構築を図るため、生産者と消費者が一堂に会した意見交換会を開催。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

宮崎県拠点とJA青年部との意見交換の際に消費者との意見交換の要望があった。これを受け、拠点と交流のある消費者団体である「コープみやざき」及び「ベジフルバスケット」に参加を要請し、JA青年部との意見交換会を開催した。

○ 取組の内容

令和5年9月6日、宮崎県拠点職員からみどりの食料システム戦略を説明後、意見交換を実施。

生産者からは、燃油・肥飼料が高騰している中で販売価格に転嫁できない現状や、慣行栽培農作物の安全性の理解を求める声が上がった。消費者側からは、生産現場の状況が理解できたことや、農畜産物の購入時に国産・地元産を選んでいるなどの声が聞かれた。

○ 効果・成果、今後の方向性

生産者も消費者も、同様な意見交換の開催には意欲があるが、どのような着地点を見出すかが大きな課題。

また、意見が出やすい適度な人数と距離感が重要。



意見交換会の様子(上段：消費者の方々、下段：各JA青年部長)

体制図

生産者 県内各JA青年部長15名
(宮崎県農協青年組織協議会)

↑ アンケート結果提供

宮崎県拠点
(意見交換会を主催)

意見交換

消費者 コープみやざき組合員11名
ベジフルバスケット会員3名